

Hello! FUJISEI

No.256

厚生労働省の「平成25年人口動態統計（確定数）の概況」によると、平成25年の死亡数・死亡率（人口10万対）を死因順位別にみると、第1位は悪性新生物（がん）で36万4872人、290.3、第2位は心疾患19万6723人、156.5、第3位は肺炎12万2969人、97.8、第4位は脳血管疾患で、11万8347人、94.1となっています。

悪性新生物は、昭和56年以来死因順位の第1位を続けており、平成25年は死亡総数に占める割合は28.8%で亡くなった人の3.5人に1人は悪性新生物で死亡したことになります。

心疾患は、昭和60年に脳血管疾患にかわり第2位となり、その後も死亡数・死亡率ともに上昇傾向でしたが、平成21年に減少後、平成22年から再び上昇し、平成25年は減少し、

死亡総数に占める割合は15.5%でした。心疾患の中でも、急性心筋梗塞、狭心症に代表される虚血性心疾患が多くなっています。

心臓の病気というと、急に起きる、怖いというイメージがあります。

先日もあるスポーツの大会で、プレー中の選手が突然、倒れました。瞬間的に捻挫かなと思ったのですが、他のコートで試合をして

AED、使えますか？

心停止の応急処置は「秒」を争います！

いた人が「ダメだ！」と叫び、プレーを中断し、そのコートに駆けつけました。その人は救急救命士で、倒れた選手の様子を見るとすぐに心臓マッサージを始め、体育館に備え付けてあったAED（自動体外式除細動器）を持ってこさせました。数名の女性の方も手伝っていましたが、後で聞くと看護師の資格を持つ選手でした。

心停止の際の応急処置は「秒」を争うと言われ、一刻も早く救命処置を始めないと、助かる可能性がどんどん低下していきます。

倒れた選手は、すぐに入院・手術をして助かったと聞きましたが、幸いにその場に専門家がいる、迅速に適切な処置をしてもらうことができたから助かりましたが、もし自分がその場で対応する立場であったら、

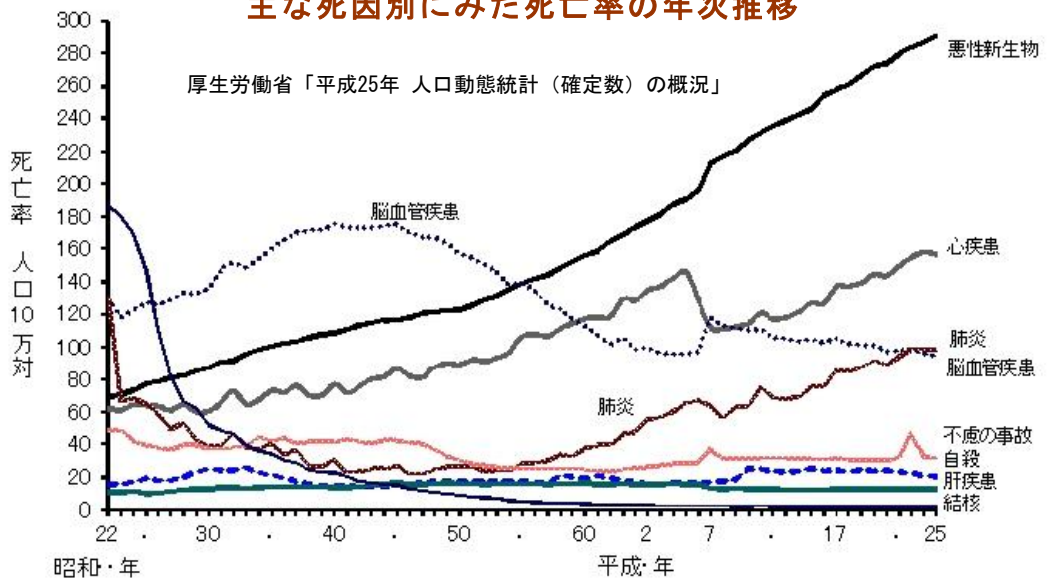
AEDがあってもできたらどうかと、考えさせられるものがありました。

日本で一般市民がAEDを使うことができるようになってから、昨年で10年目となり、公益財団法人日本心臓財団などの共催により「減らせ突然死プロジェクト」がスタートし、目標として『FROM 4 TO 5』を掲げています。

- 突然心臓が止まってしまった人へ心肺蘇生を実施する割合を4割から5割へ
- AEDによる電気ショック実施率を4%から5%へ
- AEDで電気ショックを受けた方の救命率を4割から5割へ

単に講習を受けるだけではなく、もしもの時にはAEDを使い、助けられる命を助きたいものです。

主な死因別にみた死亡率の年次推移



AIG富士生命保険株式会社

〒105-8633 東京都港区虎ノ門4-3-20
神谷町MTビル